

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第76号

令和元年 埋蔵文化財の調査・展示紹介

『埋蔵文化財』とは、様々な文化財のうち、地中に「埋蔵」された「文化財」のことをさします。埋蔵文化財は、我々の祖先が造り出したものが地中に保存された、当時の生活を知るための重要な資料であり、長い年月をかけて育まれてきた歴史や文化を伝える貴重な歴史遺産です。

さいたま市内にも、旧石器時代から近世のものまで、様々な埋蔵文化財が遺されています。現在、市内の各地には、「埋蔵文化財包蔵地」(埋蔵文化財の存在が知られている土地)が1,100か所以上確認されています。埋蔵文化財は、一度地中から掘り出してしまうと、二度とは元に戻せないものであるため、できるだけ埋もれたままの状態を保存してゆくことが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまうことが避けられない場合には、記録による保存を目的とした「発掘調査」を実施します。今年度2月までに市内で実施された発掘調査は、24件ありました。

また、さいたま市では、平成28年の10月から、岩槻区に所在する国指定史跡「真福寺貝塚」の整備に向けた発掘調査を実施しています。これは、史跡の実像を明らかにするために行っているもので、平成30年度までは集落が展開する史跡東側の調査を行い、令和元年度からは泥炭層遺跡が所在する史跡西側で調査を開始しました。なお、東側調査については調査成果の概要を皆様にお知らせするために、発掘調査概報を刊行しました。

今回は、これらの発掘調査のうち平成31年・令和元年に実施された、主な調査成果をご紹介します。

ミミズク土偶が2体出土 ～^{ひがしきたはら}東北原遺跡の調査～

〈見沼区〉

JR 東大宮駅の北西約0.7km、見沼区東大宮4丁目に所在する遺跡です。今回はこの遺跡での12回目の調査になります。分譲住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成30年11月から平成31年3月に実施しました。

調査の結果、縄文時代早期の住居跡1軒、縄文時代晩期の住居跡3軒、土坑2基、ピット2本、平安時代の住居跡1軒、^{たてあな}竪穴状遺構、縄文時代の土器・石器・土製品、平安時代の土器・鉄製品・^{てっさい}鉄滓などの遺構・遺物を検出しました。

縄文時代晩期の住居跡からは2体のミミズク土偶が出土しました。1体は完全な形、もう1体は頭部から胴部が残っていました。この住居跡からは耳飾りも多量に出土しています。



▲ミミズク土偶の出土状況(東北原遺跡)

縄文時代前期の貝塚を調査 ～側ヶ谷戸貝塚の調査～

〈大宮区〉

JR さいたま新都心駅の西約2.9km、大宮区三橋4丁目に所在する遺跡です。今回はこの貝塚での12回目の調査になります。分譲住宅の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成31年4月から令和元年11月に実施しました。

調査の結果、縄文時代前期の住居跡6軒、縄文時代中期の住居跡2軒、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡8軒・土坑、古墳時代後期の古墳周溝2条・土坑、縄文時代の土器・石器・土製品、弥生時代の土器、古墳時代の土器・埴輪・鉄製品などの遺構・遺物を検出しました。

縄文時代前期の2軒の住居跡は貝層を伴っており、そのうち1軒では貝層が30cmの厚さで堆積していました。また、古墳の周溝は重複しており、古い古墳が壊され、新しい古墳が構築されたことが判明しました。



▲貝層の検出状況(側ヶ谷戸貝塚)

弥生時代後期のムラの様子が判明 ～白幡上ノ台遺跡の調査～

〈南区〉

JR 武蔵浦和駅の東約0.7km、南区白幡1丁目に所在する遺跡です。今回はこの遺跡での5回目の調査になります。分譲住宅建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成31年1月から5月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代早期の住居跡1軒・ファイヤーピット1基、縄文時代前期の住居跡1軒・土坑9基、縄文時代中期の住居跡2軒、弥生時代後期の住居跡14軒、縄文時代の土器・石器、弥生時代の土器・石器、中世の陶器等の遺構・遺物を検出しました。

これまで遺跡の中央から東側で確認されていた弥生時代後期の集落が西側まで広がっていることが確認されました。



▲弥生時代後期の住居跡(白幡上ノ台遺跡)

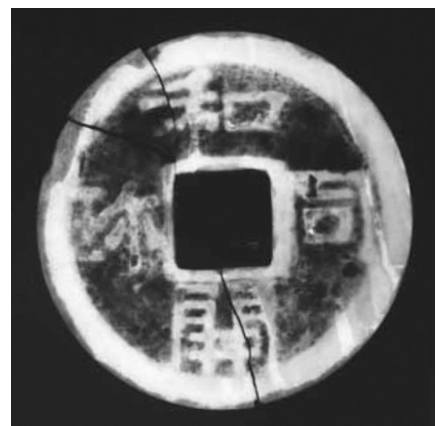
和同開珎が市内で初めて出土 ～与野西遺跡の調査～

〈中央区〉

JR 与野本町駅の西約0.9km、中央区桜丘1丁目に所在する遺跡です。今回はこの遺跡での8回目の調査になります。分譲住宅建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が平成31年3月から令和元年5月にかけて実施しました。

調査の結果、奈良時代から平安時代の住居跡14軒・掘立柱建物跡1基、平安時代以降の土坑17基・溝2条、ピット200基以上、奈良時代から平安時代の土器・瓦・鉄製品・銭貨等の遺構・遺物を検出しました。

重複して検出された奈良時代から平安時代の住居跡から、土器や布目瓦とともに和同開珎2枚が出土しました。市内では初の出土で、埼玉県でも9・10枚目となる貴重な発見となりました。



▲和同開珎のX線写真(与野西遺跡)

10000	200 BC	0 AD	200	400	600	800	1000	1200	1400	1600	1800	2000
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	江戸	近現代		

浦和別所小学校校庭で発掘調査 ～別所遺跡の調査～

〈南区〉

JR 武蔵浦和駅の北東約0.5km、南区別所に所在する遺跡です。今回はこの遺跡での13回目の調査になります。仮設校舎の建設に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和元年9月から令和2年3月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代中期の住居跡4軒・集石跡・土坑、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡4軒、近世の溝5条、縄文時代の土器・石器、弥生時代～古墳時代の土器・石器などの遺構・遺物を検出しました。

今回の調査により縄文時代と弥生時代後期から古墳時代前期の集落が台地の南側縁辺部まで広がることが確認されました。



▲弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡
(別所遺跡)

低地際の様子が新たに判明 ～真福寺貝塚の調査～

〈岩槻区〉

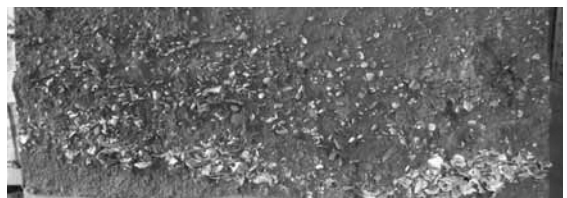
東武野田線岩槻駅の南東約1.6km、岩槻区城南3丁目に所在する遺跡です。令和元年から泥炭層遺跡が所在する史跡西側での調査を開始しました。

調査区東側は窪地の中から縄文時代晩期の土器がまとまって出土しました。泥炭層に近い西端の低地際では黒色土とローム土が互層になっており、その黒色土中からは縄文時代晩期の土器が多量に出土しました。また、ヤマトシジミを主体とする貝層が形成されていることが確認されました。これらのことから、低地際にも居住域である、窪地を取り囲む高まりが延びていたことがわかりました。

なお、東側調査区では、高まり内で確認されたマガキを主体とする貝層の実物標本を作製しました。今後、展示などで活用していきます。



▲低地際の貝層及び遺物検出状況(真福寺貝塚)



▲貝層の実物標本(真福寺貝塚)

～小学生が発掘調査を体験しました～

〈真福寺貝塚と別所遺跡〉

真福寺貝塚と別所遺跡の発掘調査期間中に、小学生を対象とした体験発掘調査を実施しました。

真福寺貝塚では近隣の柏崎小学校と城南小学校の6年生が、貝塚と発掘調査について事前学習したうえで実際に発掘調査を体験しました。

校庭で発掘調査を実施した浦和別所小学校でも、6年生が発掘調査の体験を行いました(1～5年生は発掘調査の見学)。

いずれの現場でも、児童たちは熱心に発掘調査に取り組みました。土器などが出土すると歓声をあげたり、出土した土器について細かく質問するなど、目を輝かせていました。



▲浦和別所小学校体験発掘の様子(別所遺跡)

埋蔵文化財の展示紹介

さいたま市では、埋蔵文化財の調査のほか、市民の皆様へ発掘調査の成果を紹介し、埋蔵文化財に理解を深めていただくための活動も行っています。

令和元年9月から令和元年11月まで、市内で行われた発掘調査の成果をいち早く紹介する「最新出土品展」を、さいたま市立博物館(大宮区)、七里コミュニティセンター(見沼区)、コクーンシティ2(大宮区)の各会場で開催しました。公共施設のほか商業施設で開催したことで、多くの方にご来訪いただきました。

最新出土品展の開催中の9月7日には「さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」をさいたま市立博物館で開催し、代表的な発掘調査成果等を各調査担当者が発表しました。発表会終了後、市立博物館の特別展示室で開催中の「最新出土品展」で、調査担当者による展示解説を行いました。



▲最新出土品展(コクーンシティ2)

お知らせ

□国指定天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」 指定100年

令和2年は田島ヶ原サクラソウ自生地が国の天然記念物に指定されてから100年となります。この節目を記念して、これまでの保全の歩みを振り返り、これからの100年の保全に向け様々な記念事業を行います。

浦和博物館(緑区三室)では、自生地の保存に尽力した人物を紹介するミニ展示「学と貞亮—自生地を遺した二人—」を開催予定です。

また、サクラソウ自生地(桜区田島)は、例年3月下旬から4月上旬にかけてサクラソウの見頃を迎えます。

今後の催しやサクラソウの開花状況については、さいたま市ホームページなどでお知らせします。



▲田島ヶ原サクラソウ自生地



▲100年を記念して

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止や内容を変更する場合があります。詳しくは、市ホームページ又は電話にてご確認ください。